

20番		戸田由久議員	
項目	令和8年度予算編成及び市政運営について	項目	令和8年度予算編成及び市政運営について
<p>(要旨)</p> <p>1、予算編成の基本方針と行財政改革について</p> <p>① 令和8年度の予算編成に際して、市民ニーズを「客観的・定量的に」把握するため、全庁的にどのような方法を取り、各部署の事業効率を図るため、どのような指標を使い、評価しているのか。その評価に基づき、事業の優先順位を定め、予算配分に当たられたのか、具体的なプロセスと基準を伺います。</p> <p>② 既存事業の廃止・見直しによって、どの程度の財源を捻出し、それを新規・重点事業（子育て・防災等）にどう配分したのか伺います。</p> <p>③ 業務フローの可視化・分析調査の結果、どのような具体的成果（例えば残業削減やコスト減など）を見込んでいるのか伺います。</p> <p>④ 予算編成過程の公開について、市民への説明責任を果たすための具体的な情報公開の進捗を伺います。</p>		<p>(要旨)</p> <p>2、少子化対策の鍵である、子ども・子育て支援の抜本的拡充について</p> <p>① 給食費無償化について</p> <p>市長は中学3年生を対象とした給食費の無償化を打ち出されました。一定の評価をするものでありますが、市長がマニフェストで掲げ、多くの市民が期待しているのは、あくまで『小中学校すべての完全無償化』であります。中学1・2年生に対する無償化を、いつ、どのようなスケジュールで進めていくお考えか伺います。</p> <p>② 少子化対策について</p> <p>(1) 出生数600人割れというこの危機的な現状を、市長はどのように受け止めておられるのか伺います。</p> <p>(2) この事態を打破するために、令和8年度当初予算案で、子ども子育て関連予算が十分と考えているのか伺います。</p> <p>(3) これまでの経済的支援だけでなく、愛知県が行っているような就労支援や住環境の整備を含めた『瀬戸市独自の少子化対策パッケージ』を提案するが、市の考えを伺います</p>	

20番		戸田由久議員	
項目	令和8年度予算編成及び市政運営について	項目	令和8年度予算編成及び市政運営について
<p>(要旨)</p> <p>3、危機管理と市民の命を守る基盤整備について</p> <p>① 消防庁舎建て替えの早期実現について</p> <p>現消防庁舎は、老朽化による「消防力の最大限の発揮」への懸念があり、「安心できる執務環境」ではなく、もはや限界です。令和8年度の基本設計実施に向けた具体的な準備状況と、早期着工のための財源確保の道筋を伺います。</p> <p>② 瀬戸市体育館へのエアコン設置の早期実現について</p> <p>(1) 請願採択という重い民意を、市長はどのように受け止めておられるか。</p> <p>(2) 設置にあたっては多額の費用を要しますが、国の補助金や起債の活用、あるいはPFI手法などの検討を含め、いかにして早期かつ財政負担を抑えた整備を行うのか明確なスケジュールを伺います。</p>		<p>(要旨)</p> <p>4、市政運営における行政品質の向上について</p> <p>① 公文書管理条例の早期制定と透明性確保について</p> <p>(1) 昨年度の要望から現在に至るまで、条例制定に向けた検討がなぜ進んでいないのか、その遅滞の理由を明確に説明されたい。</p> <p>(2) 公文書は単なる事務書類ではなく、『市民の共有財産であり、民主主義を支える知的資源』であるという認識を、市長は理解されているのか伺います。</p> <p>(3) 令和8年度中に条例制定、あるいは少なくとも制定に向けた有識者会議の設置など、具体的なアクションを起こす決断はできないか市長の決意を伺います。</p>	

20番		戸田由久議員	
項目	令和8年度予算編成及び市政運営について	項目	令和8年度予算編成及び市政運営について
<p>(要旨)</p> <p>5、市民生活を直撃する課題への対応について</p> <p>① 物価高騰対策について十分な財政出動を行ったかについて</p> <p>(1) 市長は今回の予算に盛り込んだ物価高騰対策が、市民生活を支える上で『十分な規模』であると断言しているのか伺います。併せて、その判断基準は何かも伺います。</p> <p>(2) 特に影響を強く受けている住民税非課税世帯や子育て世帯、さらにはエネルギー価格高騰に苦しむ中小企業に対し、ピンポイントで実効性のある、他市に引けを取らない規模の独自支援についての考えはないか伺います。</p> <p>(3) 今後の物価動向次第では、年度途中であっても予備費の活用や補正予算による追加の財政出動を躊躇なく行う考えがあるのか伺います。併せて財政出動を行う場合、どのような事態を想定し、いかなる判断基準をもって、機動的な財政出動に踏み切るお考えか伺います。</p>		<p>(要旨)</p> <p>② 水道事業の経営責任と将来の料金負担のあり方について</p> <p>令和7年12月定例会において、令和8年度から5年間で不足する事業費を補うため、水道料金を平均42%引き上げるという、市民にとって極めて重い負担増を強いる議案が可決されました。物価高騰に苦しむ市民の間には「なぜこれほどの事態になるまで経営改善がなされなかったのか」「今後も際限なく上がるのではないか」という強い不信感が渦巻いています。「命の水」に関わる重大な負担増に対し、将来にわたる明確なビジョンを示す責任があります。老朽管の更新や施設整備には莫大な費用が必要です。令和12年度以降、再び事業費の不足が生じた際、市長は今回と同様に「不足分はすべて利用料金の値上げで市民に負担させる」という経営手法を繰り返すつもりなのか伺います。</p>	

20番		戸田由久議員	
項目	令和8年度予算編成及び市政運営について	項目	令和8年度予算編成及び市政運営について
<p>(要旨)</p> <p>6、産業廃棄物処分場計画に対する市長の姿勢と意見表明について</p> <p>① 自治会や議会がこれほど強い反対の声を上げている現状を、市長はどう受け止めておられるか伺います。</p> <p>② これ以上の不安を市民に与えないためにも、手続きの完了を待つことなく、一刻も早く市長自らが『市民の側に立つ』という明確な意思表明を行うべきと考えますが、市長の決断を伺います。</p>		<p>(要旨)</p> <p>7、部課別の事項について</p> <p>① 次期将来計画と市民参画について (企画部)</p> <p>(1) 「参画しやすい環境」の実現に向けて、デジタルツールの活用や開催時間の工夫など、どのように取り組むのか伺います。</p> <p>(2) 子育て世代や若者、地域活動団体など、多様な層が「自分たちの街の計画だ」と実感できるようなものとするため、どのような参画の場を検討しているのか伺います。</p> <p>(3) 「市民の意向を反映する」ための具体的な手法や、多様な世代の意向をどのように集約し、計画の優先順位に反映させるのか伺います。</p>	

20番		戸田由久議員	
項目	令和8年度予算編成及び市政運営について	項目	令和8年度予算編成及び市政運営について
<p>(要旨)</p> <p>② 市政運営におけるカスタマーハラスメント対策について (総務部)</p> <p>(1) 「対応マニュアルの整備」や「相談体制」は単なる紙面上の対策に留まっていないか、職員が毅然と対応できるよう、弁護士との顧問契約や、窓口への録音装置の設置など、具体的な予算措置はどのようなものか伺います。</p> <p>(2) 国において2026年中にカスハラ対策が義務化され、愛知県でも条例が施行される中、瀬戸市として市役所窓口などで働く職員を守り、結果として質の高い市民サービスを維持するため、条例化を目指すべきと考えるが見解を伺います。</p>		<p>(要旨)</p> <p>③ 環境施策、事業系ごみの減量対策について (市民生活部)</p> <p>本市の一般廃棄物排出量のうち、事業系ごみは年間約6,500トンからトン前後で推移しており、家庭系ごみが分別の徹底や市民の努力により減少傾向にある一方で、事業系ごみの削減幅は極めて鈍く、高止まりの状態が続いています。「本市の『一般廃棄物処理基本計画』では、令和15年度までに事業系ごみを5,676トンまで減らす高い指標を掲げています。この高いハードルをクリアするには、新たな仕組みの構築が必要かと考えますが、令和8年度は、事業所に対する「お願いと啓発以上」の更なる取り組みが不可欠であると考えますが、どのようにされるのか伺います。</p>	

20番		戸田由久議員	
項目	令和8年度予算編成及び市政運営について	項目	令和8年度予算編成及び市政運営について
<p>(要旨)</p> <p>④ 教職員の倫理意識向上と信頼される学校づくりについて (教育部)</p> <p>(1) 教職員の不祥事防止に向け、実効性のある再発防止策の検討・実施を求めました。倫理観の向上を呼びかけるだけでは不祥事は防げません。例えば、校内における私用スマートフォンの持ち込みルールの厳格化や、死角をなくすための校内点検の徹底、あるいは第三者的な視点を取り入れたハラスメント・不祥事防止の仕組みづくりなど、「不祥事を起こさせない環境」について、どのように取り組んでいくのか伺います。</p> <p>(2) 不祥事が発生した際の最大の被害者は子どもたちです。万が一、不祥事が発生した、あるいはその疑いが生じた際、子どもたちの心のケアや、保護者への迅速かつ誠実な情報公開を担保するための「学校・教育委員会の即応体制」について、どのように取り組んでいくのか伺います。</p>		<p>(要旨)</p> <p>⑤ 学校プール授業の民間活用について (教育部)</p> <p>学校プール授業において、民間プール活用及び授業の委託を求めた事について伺います。民間プールへの移行は、単なる熱中症対策に留まりません。天候に左右されない授業回数確保、専門インストラクターによる指導、そして教職員の負担軽減など、多くのメリットが期待されます。令和8年度予算案において、3校分の民間委託費用が計上されていますが、民間委託が実施されている学校の児童は、天候や水温を気にせず、専門のインストラクターから、清潔で機能的な施設で指導を受けられる一方、残りの11校の児童は、依然として天候に左右され、老朽化した屋外プールでの授業を余儀なくされています。そこで市長に伺います。</p> <p>(1) 市内14校中3校という現在の実施状況は、教育の機会均等という観点から、児童一人ひとりの視点に立った際、極めて不公平な状態であると考えますが、市としての認識を伺います。</p> <p>(2) 『教育環境の格差』を放置することは、住んでいる地域によって受けられる教育サービスに差をつけることになり、市民の納得を得られません。全校実施に向けた具体的なロードマップについて伺います。</p>	

20番	戸田由久議員	
項目	令和8年度予算編成及び市政運営について	項目 令和8年度予算編成及び市政運営について
<p>(要旨)</p> <p>⑥ 保育所の待機児童対策について (健康福祉部)</p> <p>子育て支援施策、特に保育所の待機児童および未利用児童対策について伺います。本市において、待機児童数は一定の改善を見せているものの、特定の園への集中や入所選考に漏れた「保留児童・未利用児童数」は依然として高い水準にあります。保護者からは「働きたいが預け先が決まらない」「育休を延長せざるを得ない」といった悲痛な声が絶えません。保育の受け皿を増やすためには、ハード面以上に「保育士の確保」が最大の壁となります。近隣自治体との保育士争奪戦が激化する中、瀬戸市独自の「保育士確保策」や、現在働いている保育士の離職を防ぐための「宿舎借り上げ支援」「処遇改善」等の施策について、令和8年度はどのような対策を図られたのか伺います。</p>	<p>(要旨)</p> <p>⑦ 新たな移動手段の確保について (都市整備部)</p> <p>本市においては、基幹的な鉄道や路線バスが走る一方で、起伏の激しい地形や住宅地の広がりから、既存の交通網だけではカバーしきれない「交通不便地域」が依然として存在します。高齢化の進展に伴い、免許返納後の移動手段の確保は「日常生活の死活問題」であり、わが会派は昨年度の要望書において、「地域ニーズに合わせた柔軟な交通網の構築」と「ライドシェア導入の検討」など、移動困難者への支援を強く求めました。令和8年度にデマンドタクシーの導入、ライドシェアの導入など、新たな移動手段の確保にどのように取り組まれるのか伺います。</p>	

20 番		戸田由久議員	
項目	令和8年度予算編成及び市政運営について	項目	令和8年度予算編成及び市政運営について
<p>(要旨)</p> <p>⑧ 中日ドラゴンズ二軍本拠地の誘致について (経済文化部)</p> <p>市長が意欲を示されている「プロ野球2軍本拠地の誘致」について伺います。プロ球団の誘致は、都市の知名度向上や経済波及効果が期待される一方、新球場や練習施設の建設、周辺道路の整備などには、場合によって数十億円単位の巨額な公費投入が必要となります。他自治体も名乗りを上げており、誘致競争は、自治体側の譲歩(過度な公費負担の提示)を招きがちです。「既存の市民球場やスポーツ施設の修繕もままならない中で、なぜ新設のプロ仕様施設が必要なのか?」と市民から疑問の声があがることも予測されます。そこで市長に以下2点伺います。</p> <p>(1) 中日ドラゴンズ2軍本拠地誘致に関し、現時点でどの程度の規模の予算を想定しているのか伺います。</p> <p>(2) 厳しい財政状況である本市のどこに、それだけの予算を捻出する余裕があると考えているのか伺います。</p>		<p>(要旨)</p> <p>⑨ 大規模災害に対する備えについて (防災安全課)</p> <p>地域防災の根幹である「地区防災計画」について伺います。次の巨大地震が来たらどう責任を取るのかと言う問題に発展しかねません。そこで市長に伺います。令和8年度どのように加速させていくのか伺います。</p> <p>(1) しかしながら、本市における地区防災計画の策定状況を見れば、いまだ全連区の約半数にとどまっており、計画が「ある地域」と「ない地域」の間で、命の安全保障に格差が生じる恐れがあります。この現状を、担当課はどのように認識しているのか。</p> <p>(2) 半数の地域が未策定のまま放置されている現状は、看過できません。未策定の地域において、何がボトルネックとなっているのか。単に「地域の自主性に任せている」と言うのではなく、市が主導して専門家を派遣する、あるいは策定のハードルを下げるための具体的な伴走支援を強化すべきではないか。</p> <p>(3) 次の巨大地震が来たらどう責任を取るのかと言う問題に発展しかねません。そこで市長に伺います。令和8年度どのように加速させていくのか伺います。</p>	

20 番		戸田由久議員	
項目	令和8年度予算編成及び市政運営について	項目	
<p>(要旨)</p> <p>⑩ 中水野駅周辺土地区画整理事業について（都市整備部）</p> <p>本事業は、本市の将来を担う重要な拠点整備ではありますが、その事業費の膨張の可能性に懸念を抱いております。現在の仕組みでは、市長が明確な『意思』を持って歯止めをかけない限り、一般会計から繰り出され続け、事実上、市民の血税が『青天井』で投入されかねない構造となっております。</p> <p>(1) 中水野の事業において、今後さらなる事業費の増額が必要となった際、どこまでであれば許容できると考えておられるのか。市長が想定する『最終的な負担の限界点』を伺います。</p> <p>(2) 他の優先すべき市民サービスとのバランスを考えたとき、偏りのない市政を掲げられている市長の公約に対し、本事業の増額を優先し続けることが、全市民に対する公平な財政配分と言えるのか伺います。</p>		<p>(要旨)</p>	